

原木しいたけを作り始めたのは平成16年。偶然そこを訪れた農家さんに「しいたけを作るのに適している、作ってみたらいいのに」と言われたのがきっかけですね。夫婦どちらも、知識や経験はゼロの状態でしたが、それが逆に抵抗感を感じさせなかつたのかもしれません。

最初は副業として始めようとしました。けれど、始めてみたら夫の本業と繁忙期が重なってしまって。それに、自然を相手にする仕事ですから、片手間にやるようなものじゃないと感じ、しいたけ一本にしました。大変ですが、とてもやりがいがある仕事だと思っています。

しかし、最近はしいたけの需要そのものが減ってきてしまって。これは自分たちからもアクションを起こさないといけないと、体験型観光農園を始めました。しいたけを栽培するなかで実感した、自然や環境との関わりの大切さをお客さんにも伝えて、いたけに附加価値をつけたいと思ったんです。そして、しいたけ作りの体験だけでなく、国東市に滞在し、いろんな場所を観光してもらうための拠点も作りたいと思って、民泊も始めるこ

とです。

山口 しのぶさん

Interview 山や・杜の台所 山口 しのぶさん



ジェンダーは関係なく自分ができることをやる

国見町出身。
平成16年に夫婦で新規就農し、原木しいたけを栽培。直販している乾しいたけは市内外で高く評価されている。
この春、新たに体験型観光農園『杜の台所』を開園。挑戦を続けている。

にしました。

—子育てと仕事はどうの間に両立していますか？

山口 周りの方々の助けを借りながら、バランスをとって両立しています。しいたけ栽培を始めたばかりのころは、まだ上の子たちが小さかったんですね。けれど、夫の母や、保育園の先生たちに助けていただいて、両立ができました。三人目を妊娠したときには、近所の方々が収穫作業などを手伝ってくれました。おかげで仕事が滞らなかつたので、とてもありがたかったです。

今は娘が市外の学校に通い、部活動を頑張ってるんです。観光農園と民泊は土日の体験・宿泊ができないんです。が、これは娘のために時間をとりたいから。送迎だけでなく、土日は部活の試合があることもありますから、その応援に行きたい。頑張ってる姿からは活力ももらえますからね。

母からはよく「何のために働いてるかということ、おざなりにしたらいけん部分っていうのを考えながら働きよ」と言われています。それはとても大事にしていますね。

—ジェンダーによる悩みを感じたことはありますか？

山口 実は、あまり感じたことがないんです。ジェンダーは関係なく、自分

ができる仕事をやっているからかもしれません。

—子育てと仕事はどうの間に両立しますか？

山口 周りの方々の助けを借りながら、

バランスをとって両立しています。

しいたけ栽培を始めたばかりのころ

は、まだ上の子たちが小さかったんで

す。けれど、夫の母や、保育園の先生

たちに助けていただいて、両立ができ

ました。三人目を妊娠したときには、

近所の方々が収穫作業などを手伝つてくれました。おかげで仕事が滞らなかつたので、とてもありがたかったです。

—国東で起業や働くことを目指して

いる女性へのメッセージをお願いしま

す。

山口 起業する、働くことをを目指している方なら、やる気は既に持たれていると思います。あとは、何をモチベーションにするのかが大事です。私の場

合は「私がやらなきゃ」という「勝手な使命感」と、協力していただいた方

たちへの感謝の気持ちです。協力して

いただいた分、自分もまた人の役に立てるように頑張りたい！ それらが私

の原動力ですね。

それから、他の人もどんどん巻き込

んでいくことが大事です。自分一人

じゃできないことは必ずあります。自

分の不得意を補つてくれる人を見極め

て、遠慮せずに声をかけてみてください。頑張っている人に共感してくれる

人たちは必ずいます。一人で頑張らず、

誰かに頼っていくと、必ず前に進んで

いただけますよ。

